

第3の矢. 「安心につながる社会保障」 (介護離職ゼロ)に関する見直し案について

平成27年11月26日
塩崎大臣提出資料

第3の矢.「安心につながる社会保障」(介護離職ゼロ)(見直しの概要)

【第2回国民会議提出資料】

約34万人分 ⇒ 約40万人分
(2020年度まで) (2020年代初頭)

+約6万人分
(介護離職防止)

<整備対象の在宅・施設サービス>

- ・特別養護老人ホーム
- ・介護老人保健施設
- ・特定施設(ケアハウス)
- ・認知症グループホーム
- ・小規模多機能型居宅介護
- ・看護小規模多機能型居宅介護

計6種類
<約6万人分>

【介護離職防止】

介護離職者・転職者 約10万人 (注1)



【特養待機者解消】

特別養護老人ホームの自宅待機者(要介護3以上) 約15万人 (注1)

【見直し後】

約38万人分以上 ⇒ 約50万人分以上
(2020年度まで) (注2) (2020年代初頭) (注3)

+約12万人分
(介護離職防止)+(特養自宅待機者解消)

<整備対象の在宅・施設サービス>

- ・特別養護老人ホーム
- ・介護老人保健施設
- ・特定施設(ケアハウス)
- ・認知症グループホーム
- ・小規模多機能型居宅介護
- ・看護小規模多機能型居宅介護
- ・**定期巡回・随時対応型訪問介護看護**

【追加】

(注2)

計7種類
<約10万人分>



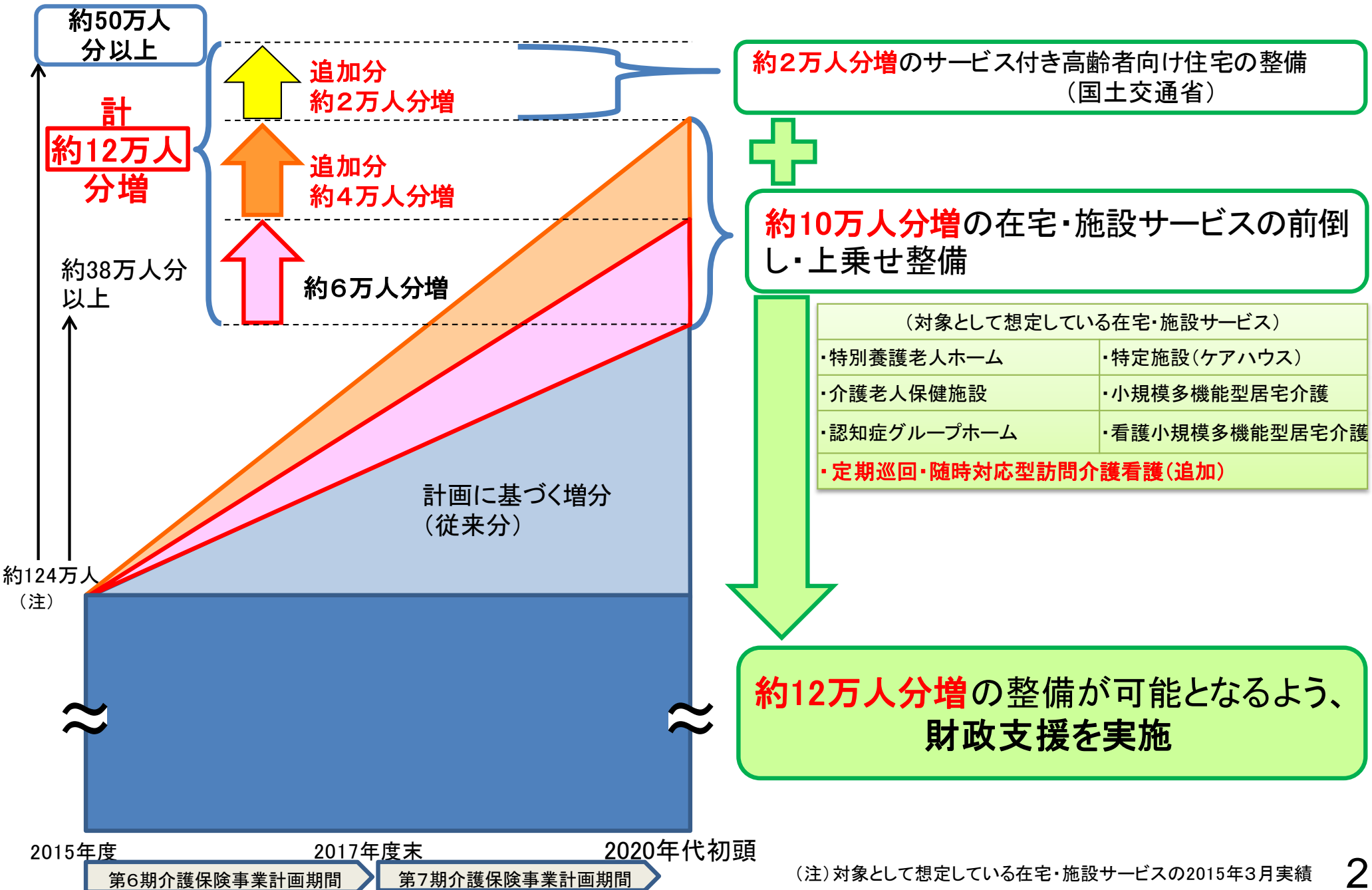
サービス付き高齢者向け住宅
(国土交通省) <約2万人分>

(注1) 第7期介護保険事業計画策定に向け、介護離職との関係も含めた地域ニーズのよりの確な把握を図るとともに、特別養護老人ホーム待機者の状況等についてより詳細な実態調査、検証を実施。

(注2) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の追加に伴い、約34万人分が約38万人分に修正。

(注3) サービス付き高齢者向け住宅については、介護保険事業計画上の記載がないことから「以上」と表記。

第3の矢. 「安心につながる社会保障」(介護離職ゼロ)(前倒し・上乗せ整備のイメージ)



第3の矢. 「安心につながる社会保障」(介護離職ゼロ)(対応のイメージ)

介護離職・転職者
約10万人(注1)

自分の希望な
どで離職

約6万人

約6割は仕事を
続けたかったが、
やむをえず離職
(注2)

約1~2割は介
護サービスが利
用できなかった
ためやむをえず
離職(注2)

約
1.5
万人

- 高齢者の増加に対応した介護サービスの確保が必要。
⇒ **必要な介護サービスの確保(地域包括ケアの推進)**

- 介護する家族に対する地域の支援が必要。
⇒ **介護サービス利用に当たっての相談・支援の充実**

- 職場において介護休業をはじめとした柔軟な働き方に対する十分な理解がない。
⇒ **介護サービスを活用するための家族の柔軟な働き方の確保**

- 介護サービスの存在・内容が十分知られていない。
⇒ **働く家族等に対する相談・支援の充実**

- 介護サービスが利用できない。
⇒ **在宅・施設サービスの整備の前倒し・上乗せ**

※ 対象となる在宅・施設サービスの平均在所期間を考慮し、
約4年分=約6万人分を前倒し整備

(注1)総務省「平成24年就業構造調査」より

(注2)三菱UFJリサーチ&コンサルティング「仕事と介護の両立に関する労働者アンケート」(平成24年度厚生労働省委託調査)より

- **約12万人分**の介護サービス基盤（介護在宅（24時間対応型）・施設サービス、サービス付き高齢者向け住宅）の前倒し・上乗せ整備を行い、2020年代初頭までに
 - ① 受入れ場所が見つからずに離職にいたる方々をなくすとともに、
 - ② 入所が必要であるにもかかわらず自宅で特別養護老人ホームの入所を待機されている高齢者を解消することを旨とする。

